



# 高年初産婦の産後1か月間における子育て生活体験



森 恵美, 岩田 裕子, 坂上 明子, 前原 邦江, 小澤 治美, 森田 亜希子, 前川 智子  
千葉大学大学院看護学研究科

## ■ 目的

近年、わが国の出産において高年初産婦の割合が急増しており、妊娠中はハイリスクとして産科学的に管理されている一方、出産後のケアについては特別なガイドラインは示されていない。そこで、高年初産婦の産後4か月間における生活活動と身体的心理社会的健康状態、母親役割獲得過程との関係から、子育て支援ニーズを考察することを目的に研究を行った。今回は、**高年初産婦の産後1か月間における子育て生活についての体験**を記述した研究成果を報告する。

## ■ 対象

- 研究協力施設は、関東地方の病産院3施設である。
- 35歳以上の初産婦**で、母子ともに大きな異常がなく母子同室が可能な者を抽出し、産後0～4日目に文書と口頭で研究依頼を行い、同意書の得られた者を対象とした。
- 途中辞退者が1名あったため、産後1か月時の研究参加者は**21名**であった。

## ■ 方法

- 産後1か月時**に、研究者が60分程度の**半構成的面接**を行った。
- 面接内容は、産後の身体症状および不定愁訴、基本的ニードの充足と対処、現在の自己の母親役割や赤ちゃんとの生活についての受けとめ、母親役割を遂行するにあたっての楽しみ、困難と対処などであった。
- 研究参加者の同意を得て録音し書き起こした逐語録から、子育て生活についての体験の描写を抽出し、**質的帰納的に分析**した。面接者を含む8名の母性看護学研究者の合議によってカテゴリー化を行った。
- 研究参加者の背景に関する情報は、自記式質問紙および母子健康手帳より収集した。
- 研究者の所属する大学の倫理審査委員会の承認を得た。

## ■ 結果

- 研究参加者の概要を表1に示す。
- 高年初産婦の産後1か月間における子育て生活体験**は、1109コード、251サブカテゴリー、**81カテゴリー**となり、**13大カテゴリー**に集約された。(表2)

表2: 高年初産婦の産後1か月間における子育て生活体験のカテゴリー、大カテゴリー

表1: 研究参加者の概要 (N=21)			
	M±SD (range)	n	(%)
年齢(歳)	37.0±2.5 (35～44)		
職業	有(常勤) 無	6 15	(28.6) (71.4)
夫の年齢(歳)	36.7±5.1 (28～47)		
不妊治療歴	有 無	5 16	(23.8) (76.2)
妊娠合併症	有(GDM, 高血圧など) 無	8 13	(38.1) (61.9)
分娩様式	正常分娩 吸引分娩など 帝王切開術	7 8 6	(33.3) (38.1) (28.6)
新生児の異常	有(初期嘔吐, 光線療法など) 無	3 18	(14.3) (85.7)
出生体重(g)	3052.6±373.8 (2220～3795)		
入院中の栄養方法	母乳栄養 混合栄養	1 20	(4.8) (95.2)
退院後の帰宅先および主な援助者	里帰り ---- 実母 自宅 ---- 夫(育休) 自宅 ---- 夫とヘルパー 自宅 ---- 実母(通い) 自宅 ---- 義母(通い)	9 3 1 6 2	(42.9) (14.3) (4.8) (28.6) (9.5)

大カテゴリー	カテゴリー
<b>この子への愛情と成長を感じながらの子育て生活への自信</b>	この子がかわいくてしょうがなく、成長が嬉しい この子の成長を感じながら、この子とのやりとりを今後も楽しみたいと思う この子の成長が実感でき、成長に興味をもっている この子の世話に慣れ上手になっている自分の変化を感じている
<b>母親としての実感とこの子を育てる責任の自覚</b>	周囲から母親として認めてもらったり、子育ての中で母親になったことを実感でき、うれしい この子を守り世話をする責任を感じる 子育てをしてみて、母親である体験に新鮮さや感動を感じた
<b>この子らしさやサインの読み取りと応答</b>	この子らしさに気づいている この子のサインやリズムがわかるようになった 泣きやませ方や寝かしつけは試行錯誤し、対応でき始めている
<b>この子の異常や自分の子育てへの不安と専門家への相談</b>	専門家に子育てを相談して対処している この子の成長により死んでしまうのではないかという不安がなくなった 今後の子育てについて予期的に心配する
<b>母乳哺育に伴う心配や焦り、落ち込み</b>	授乳の時のこの子の様子を見て心配したり、反省したりする
<b>この子と私に合った授乳方法の選択と母乳哺育継続への自信</b>	母乳へのこだわりをやめて楽になる 母乳哺育が自分たちなりに上手くいくようになったと思う 赤ちゃんの状態やおっぱいの状態に合わせて授乳を工夫している 母乳哺育を続けるために自分なりに頑張る
<b>子育てによる睡眠不足や高齢による体力のなさに起因した疲労</b>	思ったよりもまとまった睡眠や昼寝ができていますので、子育てが大変ではない 睡眠不足は今ほしょうがなく、その生活に慣れてきた 心身ともに家事を無理して行っているわけではない この子の機嫌や寝かしつけによって、私の疲れ具合が違う
<b>身体を自己管理しながらの子育て生活</b>	出産による身体症状や持病に気づいている 出産による身体症状や持病に自分なりに対処している
<b>子育ての大変さの自覚とそれを乗り越える自分なりの意識変革</b>	子育てを投げ出したいほどのストレスではない 子育ての本当の大変さは誰も分かってくれないかもしれないが、誰かに話したいと思う 子育ての大変さを発想の転換で乗り越える 子育てには気分転換や気持ちのコントロールが必要であると思う
<b>サポートがある子育て生活から、私たちなりの子育て生活への移行</b>	夫婦二人で補い合い、私はゆとりをもって子育てできている 夫の子育てへのかかわりを期待し、夫の頑張りを認める 夫や身内が私の子育ての辛さ、悩み、不安を理解してくれて、助かっている 夫や家族に私の子育てを手伝ってもらい、助かった 今後の生活について予期的に心配したり、楽観的に見通したりする 家族がいないので、家事ヘルパーがいて安心だった 自分で子育てできるようになったので手伝いはいらぬ
<b>子育てしている同世代の友だちづくりへの切望</b>	ようやく子育てしている人たちと情報交換や相談ができるようになり、安心できている
<b>この子中心の生活と自分の生活との調和</b>	今は赤ちゃんのペースに自分の生活を合わせている 自分の生活リズムにこの子の生活リズムを合わせる工夫をしている 私は良い子育て用品を選ぶことができ満足している 自分の基本的な生活をする余裕がある
<b>親子の健康と私たちらしさを大切にしたい子育て方針や家族計画</b>	自分たちなりの子育て方針やこの子への期待がある 待望の子どもなので、母親として最大限のことを工夫しながら行っていきたい この子の健康のことを考え気をつけ、自分たちなりに良い方法をとうとうとする この子のために心身ともに健康でいなければならないと思う 母親だけでない自分らしさも大切にしていきたい 遊びや仕事に満足した年齢で出産したが、この子には異常もなく、今が産み時だったと思う

## ■ 考察

高年初産婦の子育て支援ニーズは、この子らしさやこの子のサインを適切に読み取り適切に応答すること、子育て生活への自信をもつこと等の初産婦の子育て支援ニーズに加えて、**高齢であることに起因する子育て支援ニーズ**があることが示唆された。また、人生経験があることで大変な子育てを自分なりの意識変革で乗り越え、私たちらしさを大切にしたい子育て方針等をもつ等、**高年初産婦の強み**があることも示された。

